



はない独自の事業で、町の財産であり、新たな自主財源となり得る事業でもあります。それだけではなく、知名度で劣る須恵町を町外に知ってもらう一端を担っています。町内企業における担い手問題を解消し、将来の税収を確保するためにも、企業の発展は欠かせないものです。

④ さらしコミュニティ事業について

町長 須恵町は全国でいち早くコミュニティ事業に着手し、生涯学習の分野でも脚光を浴びました。学校支援ボランティアを活用しながら、コミュニティの祭りを開催し、地域の連帯感を深める取り組みを行ってきました。社会情勢の変化により、子育て支援、高齢者事業などの事務系の仕事、地域での細やかな町民からの相談、苦情処理などすべてが役場に集中しており、行政だけでは解決できない課題も多く存在します。これらの解決に向けて、ふれあいレインボーは法人格を取得し、さらしコミュニティ事業を試験的に実施しています。少しずつ形が見えてきたところであり、あと数年経てば、自主独立したまちづくりを実践する熟成した組織になると考え



ます。さらしコミュニティ事業とは、コミュニティが法人として、行政と対等な立場となり、お互いが協働し、地域課題を解決する形を構築することを目的としています。行政はコミュニティという強固な仲間を作ることができるように、専門分野に特化した取り組みが可能となります。一方、コミュニティは仕事をリタイアした高齢者、子育てを卒業した人たちがコミュニティに参集し、住んでいく地域で、自分たちで実現可能と思えることを実行していくことができます。これこそが生涯学習、生涯教育の理念であり、須恵町が目指すまちづくりです。まちづくりの根幹は、地域が知恵を出し合い、実行していくことにあります。地域に根付いた知識のある人材が育つていき、活気づいた地域が生まれ育ち、その中心に行政があるようになっていけばよいと思っています。ふれあいレインボーには社会実験をさらに継続して、もう1ランク上の実践を行なってもらう予定です。すこやかにコミュニティ、いきいきコミュニティについては、さらしコミュニティへと自然移行していければよいと考えています。

議長 校区コミュニティ事業は平成13年に始まり、当時すこやかコミュニティで初代事務局長を務めた経験がありますが、ふれあいレインボーでのモデル事業が上手く進めばよいと思っています。ただし、すこやかコミュニティ、いきいきコミュニティと地域が違えば、町民のニーズや課題は異なります。ふれあいレインボーの実績をふまえて、それぞれの

地域に合わせた運営を行うことが必要なため、時期をとらえて、両コミュニティもさらしコミュニティへと移行していけばよいと考えています。「住んでよかったと思えるまちづくり」のために、さらしコミュニティ事業を発展させていきたいです。

⑤ 次期ごみ処理施設について

議長 次期ごみ処理施設は、広域で行なったほうが良い施設だと考えます。令和10年4月から稼働できるよう進めたいところですが、多額の費用がかかる事業のため、その財源について町がしっかりと検討していくだけでなく、議会としても、どの規模が適正なのか見極めていかねばならないと思っています。何より、町民の皆さんに安心してもらえる施設を建設したいと考えています。

人口の増加に伴い、ごみの量も増加しています。今後、町民の皆さんには生活の工夫などで、ごみを減らす取り組みにも協力していただきたいと思っています。

町長 稼働開始の段階で糟屋地区5町の広域行政により実施することについて、各町の議会の同意が得られました。今後、環境問題をどうするのかという点では、広域で同じベクトルで実施しなければならぬ問題です。議会にも納得してもらっていますが、さまざまな課題があります。し尿処理についても、酒水園の経年により今後の検討が必要ですが、こちらでも、次期ごみ処理施設の見通しが立った段階で、糟屋地区5町で実施できる方向性について検討していきたいと考えています。

⑥ 令和5年に特に取り組みたいこと

町長 財源を確保する必要があるのですが、できるだけ早急に着手したいことが3つあります。まず、「子育てしやすいまちづくり」として、どういった手法であれば、子育て世代が須恵町を選んでもくれるのかを考えて、福岡市内への交通の利便性、スマートICによる広域

交通網の利便性、教育環境、医療機関、買い物など住みやすい町として、財政的な支援も含めて検討していきたいと考えています。

次に、「人生100年時代」に対応した「生きがい」が持てるまちづくりとして、リタイア後の人生を須恵町で暮らす付加価値について、活躍の場が多く、須恵町に暮らして良かったと思える社会参加型の高齢化事業の在り方を研究し、対策を検討していきます。総務省の統計によれば、須恵町は令和14年まで人口が増加し続け、3万人に到達する見通しです。その後は少子高齢化による人口減少を食い止めるため、子育て世代と元気な高齢者が循環していくようなまちづくりをしなければなりません。

そして最後に、「町民の皆さんが参加しやすいまちづくり」に取り組みたいと考えています。私のまちづくりの根幹は「人づくり」で、今後の町政のため、町議会議員、町長としてふさわしい人材が出てくるよう世代交代していかないとはいけません。昨年、その土台作りとして、議長にも出席していただき、須恵町のまちづくりに対して同じ理念を持った人たちが結集した会合を開催しました。PTA、おやじの会と卒業生たち、須恵町商工会青年部などの人たちがまちづくりの支援もしており、そこで交流の輪が広がり、家を建てて移住してくる人も増えています。今年からは、自分たちが参加するまちづくりのために、楽しんで活動できる場を作りたいと考えています。将来のまちづくりのための人材を育てておくことが私と議会の役割と認識しており、町と議会が同じ方向性で物事を進めていくことが重要と考えています。

議長 今年は、議員任期最終年のため、4月いっぱい、まずは任期を全うしたいと考えています。次の選挙でどうなるかは分かりませんが、もし立候補し、当選した場合には、議員の資質を高めることに取り組みたいと考えています。叶うことなら、須恵町を思う、町

しい町民憲章があります。ぜひ、町民の皆さんに知っていただき、町民の皆さんと共に実践したいと思えます。なにより、町長はじめ多くの先人の尽力により町制施行70周年を迎えられることを大変嬉しく思います。



須恵町民憲章

に物申せるような、これからの担う次世代の人材に立候補してもらい、そういう人が当選した場合にはしっかりと育てていきたいと思えます。次世代の人たちにつないでいくためにも、切磋琢磨して選挙に挑戦してみようという人が出てくればと願っています。須恵町の将来像として目指す姿は同じなので、町長の次のステップを実現するためにも、協力するところ、厳しく見定めるところを議会としてしっかりと行い、「住んでよかったと思えるまちづくり」のため邁進していきます。

令和5年4月1日に町制施行70周年を迎えますが、特に印象に残っていることは?

議長 まず、中嶋町長と平松町長で70年のうち20年務めてこられたことを感慨深く思います。昭和39年に炭鉱が閉山し、人口は1万2千人になりましたが、さまざまな開発が行われ、現在に至ります。この5年でも人口が約1300人増えています。須恵町はこれまで以上に、交通の便が良くなってきました。土地の価格が比較的手頃なこともあり、福岡都市圏の糟屋郡の中でも人口は3万人を目指すところまできました。緑も多いし、農業・商業・住環境など計画的に整備していく必要があり、この70周年を起点に次のステップに行かないといけないと考えています。私自身は他市町出身ですが、須恵町に移住して40年以上となり、本当に須恵町が好きで骨を埋めたいと思っています。

須恵町にはまちづくりの指針となる素晴らしい町民憲章があります。ぜひ、町民の皆さんに知っていただき、町民の皆さんと共に実践したいと思えます。なにより、町長はじめ多くの先人の尽力により町制施行70周年を迎えられることを大変嬉しく思います。

私も役場に入庁して50年近くになりますが、縁あって地方創生事業の第1弾として、平成27年に郷さんと対談をし、50数年ぶりに再会しました。郷さんは、須恵第二小学校5年生のときに、1学期だけ入学していました。それが以前から顔見知りでした。お互い年齢を重ね、違う人生を歩みながらもまたこのように再会し、対談することができました。その後も関係者の皆さんとの交流が続いています。今年の町制施行70周年記念事業については、派手なことせず、肅々と進めたいと考えています。

⑦ 町民の皆さんへメッセージ

町長 町民の皆さんが良い町だと思って過ごせるように残していくのが我々の役目だと思っています。そのために多くの賛同者が得られるよう努め、「町民の皆さんが参加しやすいまちづくり」を、令和5年も心新たに、初

心を忘れず、進めていきたいと考えていますので、引き続きご理解とご協力を願います。**議長** 今期は議員定数の削減、欠席議員の議員報酬の減額、テーマを決めた議員研修とさまざまな議会改革を行ってきました。今後はこの足を止めることなく、成長する議会を目指していきたいと考えています。須恵町の自治は町民の皆さんが中心であることから、町民の負託を受けた議会としては、活発に議論していくことが大切であると考えています。そこで、今後、議会のインターネット配信を計画し、町民の皆さんに議会について積極的にお知らせしていきたいと思えます。まちづくりに強い関心を持っていただき、ぜひインターネット配信を視聴または、議会の傍聴に来ていただきたいと思えます。また、年4回の定例議会の内容を、議会広報紙「議会だより」でもお知らせしています。自分が負託した議員がどのように活動しているかぜひご覧いただきたいと思えます。

